

存在と時間 1 〈全8巻〉

一九五三年、第七版への前書き

- 001 存在の意味への問い
- 002 三つの課題

序論 存在の意味への問いの提示

第1章 存在の問いの必然性、構造、優位

第1節 存在への問いを明示的に反復することの必然性

- 003 「存在をめぐる巨人族の戦い」
- 004 存在の問いの忘却
- 005 先入観の起源
- 006 存在の概念の普遍性について
- 007 存在の概念の定義不可能性について
- 008 存在の概念の自明性について
- 009 哲学者の仕事
- 010 問題設定の考察の必要性

第2節 存在への問いの形式的な構造

- 011 存在への問いの特別な意味
- 012 問いの三つの性格
- 013 存在への問いの性格
- 014 存在への問いの地平
- 015 存在了解の暗さと明るさ
- 016 存在の問いの性格
- 017 〈問われていること〉と〈問い質されていること〉
- 018 〈問い掛けられているもの〉
- 019 現存在

- 020 循環論という形式的な異議否定
- 021 推論における循環論法との類推の否定
- 022 現存在の優位

第3節 存在問題の存在論的な優位

- 023 存在への問いの特別な性格
- 024 問いの動機
- 025 学問研究の意味
- 026 学問の水準
- 027 諸学における危機と新たな傾向
- 028 学問の基礎づけ
- 029 存在論の根源的な問い
- 030 存在論の課題
- 031 存在への問いの優位

第4節 存在への問いの存在者的な優位

- 032 現存在の特徴
- 033 現存在の特殊性
- 034 前存在論的な存在とは
- 035 実存とは
- 036 実存の問題
- 037 現存在分析の課題
- 038 現存在でない存在者についての学問と存在論
- 039 基礎存在論
- 040 現存在の三つの優位
- 041 実存の実存的なありかたを開示するための条件
- 042 古代と中世の哲学における現存在の優位性
- 043 現存在の優位
- 044 存在への問いと現存在

第2章 存在への問いを遂行するための二重の課題。探求の方法とその構図

第5節 現存在の存在論的な分析論——存在一般の意味を解釈するための地平を開拓する作業

- 045 存在への問いの二重の課題
- 046 現存在の存在論的な遠さ
- 047 現存在の優位の逆説
- 048 解釈の困難の原因
- 049 実存的な解釈と実存論的な分析
- 050 日常性への着目
- 051 現存在の分析論の限界
- 052 現存在の存在の意味としての時間性
- 053 存在了解の地平としての時間
- 054 時間の概念の伝統的な役割
- 055 時間の現象の解明
- 056 時 {とき} 性の解釈
- 057 存在への問いの答えの性格
- 058 存在論の問いの歴史

第6節 存在論の歴史の解体という課題

- 059 過去の意味
- 060 現存在の歴史性
- 061 歴史学的な問いとしての存在への問い
- 062 世界への頹落
- 063 伝統のもたらす源泉の忘却
- 064 ギリシアの存在論の頹落と現代までの歴史
- 065 存在論の伝統の解体的継承
- 066 解体の目的
- 067 考察の限界

- 068 カントの功績
- 069 カントの挫折
- 070 デカルトの欠陥
- 071 デカルトにおける中世哲学の遺産
- 072 現前性としての存在
- 073 古代の人間の定義と時性
- 074 古代の存在論の解釈の欠陥
- 075 本書のアリストテレス解釈
- 076 アリストテレスの時間論の位置
- 077 存在論の解体の意義
- 078 対決の場を目指して

第7節 探求の現象学的方法

- 079 方法論の問題
- 080 学問分野について
- 081 現象学的方法
- 082 現象学の自明性
- 083 現象学という語の由来

A 現象の概念

- 084 現象と仮象
- 085 〈現れ〉
- 086 現れと現象の関係
- 087 現れの三つの語義
- 088 「たんなる現れ」
- 089 仮象となる現れ
- 090 諸現象
- 091 現象の形式的な概念
- 092 ログスの問いへ

B ログスの概念

- 093 ログスの概念の多様性
- 094 アポファンシスとしてのログス
- 095 フォーナー・メタ・ファンタシアス
- 096 総合の意味
- 097 隠れなくすることとしての真理
- 098 ログス、アイステーシス、ノエイン
- 099 「判断の真理」とギリシア的な真理
- 100 理性、根拠、関係としてのログス
- 101 アポファンシスとしての語りの解釈

C 現象学の予備概念

- 102 現象学の形式的な意味
- 103 神学における現象と記述的な現象学
- 104 示すべき現象とは何か
- 105 現象となるべきもの
- 106 現象学と存在論
- 107 現象学の必要性
- 108 現象のさまざまな隠蔽状態
- 109 現象学の課題
- 110 研究の方法論
- 111 「現象的」と「現象学的」という用語の定義
- 112 現象学の予備的な課題
- 113 解釈学の三つの意味
- 114 超越論的な真理
- 115 現象学的な存在論としての哲学
- 116 現象学の可能性
- 117 本書のざこちなさについての弁明

第8節 考察の概要

- 118 存在の意味の問いの性格
- 119 二部構成
- 120 第一部の構成
- 121 第二部の構成
- 122 第一部の三篇構成
- 123 第二部の三篇構成

●MEMO●